# 砂名の ベトナムに乾杯

## 第17回　整形美人はお好き？

週刊Vetterに毎号掲載されている「ベトナム美人百花」。今やこういう記事を載せると日本では叩かれそうだが、ここはベトナム。誰も問題視していないばかりか、楽しみにしている方も多いようだ。

さてここに登場するベトナム人女性たち。最近はどの顔も同じに見える。色白、面長、二重でぱっちりした目、整った鼻筋、細いあご、そしてロングヘア。韓国アイドルを意識したファッションやメイクも似通っている。【蔵 KURA】の酒屋スタッフSonが記事を見て、「これ、整形してる、これも整形している」「整形するとみんな同じような顔になるね」「そんなの、意味ないじゃ〜ん」と笑っている。いくら美人でも、整形してみんな同じ顔になったら、美人であることに優位性がないと言いたいのだろう。一理ある。

私は整形に対しては否定的ではない。毎日鏡を見るたびにルンルン気分でいられるなら良いじゃないの。一方、男女問わず整形依存症に陥り、顔が崩れて収拾がつかなくなった事例を耳にすると哀れに思う。

角打ち【日本酒で乾杯！】をオープンして半年ほどしてベトナム人女性をアルバイトで雇った。まだ学生で日本語はN3レベルだが、笑顔の可愛い従順な子だった。時間にはちゃんと来るし、手先が器用で仕事の覚えも早い。一か月様子を見て本人が望むなら正式に雇っても良いかなと思っていた矢先。「今、病院にいます。入院が必要なので、休んで良いですか？」。心配して病状を尋ねても「大丈夫です。2、3日休めば仕事に戻れると思います」と言う。結局6日目に出勤してきた。

レタントンのビンコムセンターには化粧品メーカーのアンテナショップがびっしり。中でも最近、若いベトナム人女性客が多い、韓国の「Innisfree」。

「どうしたの、それ？」

確かに彼女なのだが、目は二重に、鼻は高く、顔が変わっていた。「すみません、腫れが引かなくて」。表情が乏しく、微笑んでいるのか悲しんでいるのか分からない。その顔からは、あのチャーミングで愛らしい笑顔は消えていた。どこかツンとすまして冷たい印象だ。

「お金、いっぱい掛かりました」

日本円で7万円ほどだったそうだ。いつもお金ない、お金ない、が口癖だった。時々多めにアルバイト料を上げていたのに…。別に渡したお金を何に使おうと本人の勝手だが、「次は鼻の先を細くしたいんです」と言う。欧米人のように鼻の穴が細長いツンととがった鼻にしたいのだろう。

「お金、足りません」としょんぼりしているので、「あんた、バカじゃないの？」と、思わず叱ってしまった。「へへへ」と苦笑いを浮かべたのを最後に、店を辞めてしまった。もっと稼げるアルバイト先に移ったのではないか。

私の知り合いで整形した人は後にも先にもこの子だけだったが。「本人が幸せだったらいいんじゃないの？」というドライな割り切った考え方に、ざらっとした後味の悪さが残った。

それから何となく気になってレタントン・タイバンルンヘムを見渡してみると、整形美人のオンパレード。ステレオタイプの美しい顔に、まぁるいゴムまりみたいなオッパイ。くびれたウェストに、スレンダーな手足。今日も「いらっしゃいませー」と、男性たちの腕を引っ張り、しなだれかかる。

でもまあ、いいか、みんながハッピーならば。

**月森砂名（つきもりさな）**

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯！】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。



p0_砂名の□ トナムに乾杯_17.indd 34　2021/04/13 11:40